安心で安全な生活を営むために…

■津波で都市機能が麻痺

最近、特に南海トラフ大地震による津波の災害が懸念され、岩国市の場合も津波高3メートルが予想され、海沿いの国道2号線や国道188号線は全線が冠水し、都市機能は麻痺します。

岩国・大竹道路は、広島県西部(大竹市小方)と山口県東部(岩国市山手町)を直線的に結ぶ「9・8キロの地域高規格道」であり、その所要時間は現在の三十分から十五分と半減します。救急患者、災害時の救難物資などの緊急輸送により、人々の生命を守り、安全を確保するために早急にその工事着工と完成が待たれます。

取りあえず、喫緊の問題である「国道2号岩国・大竹道路」の早期着工と完成に向け、その意志を示すために市民の皆さんの署名を募ろうではありませんか。

■今生きているわたくし達は何を為すべきか、後世に何を残せるか?

山口県出身の安倍晋三総理は日本再生をめざし、「アベノミクス」を推進しておられます。

この度の臨時国会の所信表明演説において「心(しん)志(し)あれば必ず便宜あり」(『西国立志編』)教育家中村正直翻訳)「強い意志があれば、道は必ず拓ける」の名著の言葉を引用し、国民に呼びかけられました。

まさしく安倍総理がよびかけられたごとく、岩国の明るい未来を拓き創るためにわたくしたちは今後も努力しなければなりません。

今、世界で最も住み易い国は、緑の平野とモミ・シラカバの森の国・高福祉国家デンマークだと言われています。デンマークは一八六四年、ドイツ等との戦いに敗れ、豊かなホルスタイン州等を失い、やせた荒野のみが残りました。

この厳しい現実に対応して立ち上がったのが、元工兵士官ガルダスと長男のフレデリックでした。荒地にモミの木を植林し、難行試行の後、豊かな田園都市と精密機械産業と福祉国家を創り上げたのです。ガルダスの主張に対し、誠実に忍耐強く協力した国民の真摯な努力が今のデンマークを生んだのです。

■岩国市が目指すべき姿

わたくしたち岩国市民は、安心で安全な日々の生活を営むために、岩国の持つ資源や特性を開発する必要があります。

空港や港湾が、広く世界にアクセスし、木組みのアーチ橋・錦帯橋、古くて良き伝統と歴史、豊かな自然(海・空・森・川)を多くの人が観賞するために、陸路・海路・空路を利用して、訪れて来る国際文化交流都市・岩国を創りあげ、後世に残すべきです。

もう一つは、地域の特性を生かした地場産業の育成です。例えば、牧畜(高森牛)、大島町と連携した鯛釣り観光、岸根栗の木主・全国販売、清流産業(鮎釣り観光)など地域産業特区法の制定とその適用都市です。

われわれが選んだ福田良彦市長は着実に、市民の夢の実現に向け、真摯に取り組まれており、その実行力を高く評価し、今後も期待します。

教育に岩国らしさを
佐倉教育長に提言提出

九月二十四日(水)、二宮会長をはじめとする私たち弥生会有志一同は連休明け早々、原田会長のご尽力で、佐倉弘之甫岩国市教育長にお会いして「岩国の教育への提言」をお渡ししました(**写真下**)。

文科省が「土曜授業推進事業」を打ち出したことを受け、かねがね弥生会の会員から「岩国らしい」「岩国ならでは」の教育を推し進めてほしいとの意見が多数出ていたこともあり、九月十七日、吉良元山口県小中学校PTA連合会会長と原田会長に「教育」についてのお話を伺い、アドバイスも受けたことで、急きょ、教育長に「提言」することとなったのです。

佐倉教育長からは、「提言はとてもタイムリーな内容です」と評価をいただきました。

佐倉教育長によると、現在、市教委では地域・保護者・学校によるコミュニティースクール事業で土曜授業を行いたいと、プロジェクトチームを作って検討されているそうです。

佐倉教育長は「日米交流を通してグローバルな子供に育てることが岩国らしさの一つではないかと思っています」と話されました。

ただ、現在の学校は授業や行事で忙しく「土曜授業」の時間数の確保に苦慮されているそうです。

「学校行事としてだけではなく、地域の中で、例えばスポーツ少年団活動等を通して交流することも考えています。また、岩国は市域が広いので、郡部の子どもたちにも交流させたいと考えています」と話されました。

2020東京オリンピックが開催されることが決まりましたが、「岩国でもオリンピックやパラリンピックの合宿を誘致したいと考えています。国際交流のみならず、人権の意識を持つ良い機会になるでしょう」と力を込め、「まちづくりと教育は一貫しています。岩国の子供は、岩国で責任を持って育てる、岩国の仲間意識を強くし、地元の子は地元に帰るようにしたい。そのためにも、高校とも連携して、いろんな層の受け皿を作ることが重要で、高校の学力底上げが必要となっています。岩国の教育をもっと魅力あるものにしたいと考え、いろいろと検討しています。父兄にも、学力面をもっと広く捉えていただき、間近な受験に必要な学力だけではなく、将来、社会人として生活していく上で必要な学ぶ力をつけると考えて欲しい」とされました。

この夏、名誉市民の広中平祐先生の計らいで「数学セミナー」が岩国市内で開かれました。全国から優秀な学生が集まり、市内の高校生、中学生も参加する機会を得ました。

佐倉教育長は「市内の中高生は全国から選ばれた優秀な頭脳に多いに刺激を受けた様子でした。また、全国から集まった特異な才能の子供たちは岩国の普通の子供た

ちと触れ合うことで、生活力を身につける体験ができたようです。今後も、できる限り岩国で開催していただきたいと要望しているところです」と話されました。

また、学校教育課長は「岩国ならでは、と言うならば基地の存在を外すことはできません。教育は考える力、感じ取る力、生きる力の三つの力をつけることで、その人そのものが必要なんだという、人権感覚を豊かにし、幼・小・中全体で幼い時から、しっかりと人権感覚を持たせていくことだと思います。基地内の人との交流についてはプロジェクトチームを作って何がどのようにできるか戦略を練っていこうと思っています」と話されていました。

《岩国の教育への提言》
米国人による英語土曜授業を

岩国市は岩国市教育基本計画に「豊かな心と生き抜く力を育む」を基本目標と定めておられます。また、義務教育の基本戦略には「夢と愛と力を育む教育を実践し、高い志を持って、社会に貢献する子どもたちを育成します」とあります。

社会教育施策の方向には、「心の豊かさを実感し、生きがいのある日常生活を送り、岩国に住んで良かったと感じられる環境づくりを目指します」とあり、新しい岩国の文化の創造と地域の絆を深める学習活動の構築をあげておられます。

▼日頃より、教育長には、岩国市の教育をより良いものに、岩国に住んでいることを誇りに思えるような教育を実践していただいていることに感謝しております。

この度、私たち岩国の明るい未来を創る会「弥生会」では、市内小中学校の土曜授業に、岩国基地内外に在住する米国人ボランティアを募り、米国人による英語の授業が行われるよう支援して頂くことを提言いたします。

岩国の子どもたちに岩国だからこその教育を受けさせていただきたいと提言いたします。

岩国市には米軍岩国基地があります。岩国は基地のまちであり、国際都市でもあります。岩国基地は国内有数の規模の基地で、米軍人・軍属・家族が基地内外に多数居住しておられます。

高度な教育を受けた方々も多数居住されています。社会人になってからも、勉学の意欲の高い方々が多数おられます。そのうえ、米国ではボランティア活動をすることは当然のこと、ステイタスと考える方々も多いと聞きます。

そのような米国から日本に来ている方々にも、ボランティア活動を通じて市民や子どもたちとふれあうことにより、日本のこと、歴史や文化、そして岩国の実情等知っていただく良い機会になると考えます。身近な国際交流の実践となります。

岩国の子どもたちが、小さい内から外国人と接する機会が増えることにより、ネイティブの言語を「聞く」「話す」「触れる」ことにより、コミュニケーション能力は格段に高まり、国際人として成長する手がかり、足がかりになると確信しております。

▼文部科学省は二〇一一年四月より、小学校五、六年生に外国語活動を年間三十五単位導入し、「聞く」「話す」を中心とした活動によりコミュニケーション能力の素地を養うこととしています。

岩国市でも英語指導助手によって英語授業がなされていると思いますが、すべての子どもたちが充分にネイティブの言語にふれ、コミュニケートする機会は限られているのではないかと推察いたします。

▼おりしも、文部科学省では「土曜授業推進事業」をうちだしております。学校週五日制が完全実施されて十年あまりが経過する中で、児童生徒の学力向上や豊かな人間性の育成のためには、学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら、土曜日の教育環境をこれまで以上に豊かなものにする必要があるとし、各学校における質の高い土曜授業を実施するための支援策を講じ、土曜授業の効果的な推進を図るとしています。

▼今夏、2020東京オリンピックが開催されることが決まりました。この岩国市にも海外からの観光客が増加し、その際に市民や子どもたちが日常的に海外からの観光客に接する機会も増加すると予測されます。

▼国際人として、小さな国際交流、「おもてなし」の良い機会でもあるわけです。七年後には市内各所で、さらなる国際交流の花が咲いて欲しいと思います。

以上のことから、将来の教育特区を視野に入れて、岩国市内の小中学校に岩国基地内外に在住する米国人による英語土曜授業を実施されることを切に提言いたします。

大人も交えた道徳教育を考えたい

吉良昭治

PTA活動に参加するきっかけになったのは、青年会議所の活動を終え、青年会議所活動や1997年に神戸の震災ボランティア等で得た経験等から、教育に関する意識が高まったことがあげられます。

当時、私自身、妙に余裕のない時代に入ってきたと感じはじめていました。それは、第三の波といわれたインターネットの普及と少しずつ影響が出始めた地球温暖化です。

当時、いずれもまだまだと思われていましたが、今ではその影響がはっきりと出始めています。

今回はインターネットだけに限定して考えてみますが、阪神大震災の状況がインターネットに流れた頃から急速に普及を始めました。

その後の予想はご存じのように携帯電話のインターネット化、今ではスマートフォンなどで自由に世界の情報が手に入る時代になりました。考えてみれば、わずか16年しか経過してないんですね。

その中での利用法は様々な変化をもたらしました。ほとんどのことはインターネットを利用して出来る便利な世界です。

しかし、人間というのは不思議なものですね。有効に利用するために作られたものも、悪用するものが出て、社会の混乱を招きます。

最近、多くの方が利用されているｆａｃｅｂｏｏｋやＬＩＮＥ、ＳＮＳといわれる世界もですが、平気で人を中傷したりしても平気な大人の存在、子どもたちの世界でも同様にインターネットを利用したいじめ…。大人の世界がそうなのですから、子どもたちがまねをするのは当然かも知れません。

現在、学校教育で学力向上の問題など様々な教育改革がなされようとしていますが、道徳を含めて、もっとも強化すべきは人としての生き方、人は何をするために生きていくのか。大人を含め真剣に論じていく世界が必要なのではないでしょうか。そんなことはそれぞれの家庭でやればいいという方もおられますが、家庭も崩壊している現在、どこでやればいいのでしょう。

私は学校でＰＴＡ参加のかたちで保護者も含めた道徳教育をすべきだと思っています。親が親として大人が大人としてやるべき事を迷いながらも考え、社会のために行動する。そんな教育を実現しないと、いくら学力が上がろうと、無為の世界ではないかと考えてしまいます。

そんな危機感を持っているのは私だけなのでしょうか。いえ、多くの方がそう思っておられると思っています。今の日本なら、まだそれが出来ると信じています。教育の世界を考え直す、いい時期ではないでしょうか。